

シリーズ講座「ひきこもる人々とその家族への理解を深めその支援を考える」第3回

企画：一般社団法人日本臨床心理士会（ひきこもり対策検討班）

1. **研修主旨**：「ひきこもり」は、思春期・青年期から壮年期にわたる長期的な問題として存在しており、その支援には、教育・保健・医療・福祉・労働の各領域からの包括的な取り組みが求められています。研修では、概念や論点の整理を行い、支援の現状と課題について実践家よりお話を伺い、効果的な支援を進めるために、支援者の役割について知見を深めることを目指します。
2. **日時**：平成 27 年 1 月 17 日（土） 10：30～16：30
3. **会場**：(財) 日本心理研修センター研修室（地図参照）
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8-201
4. **参加費**：会員・院生 6,000 円 非会員 7,000 円
5. **募集対象・人数**：臨床心理士・大学院生 定員 50 名
6. **テーマ等**

3	27 年 1/17 (土)	<p>5) アウトリーチ、地域・関係機関の連携と協働のあり方 要旨：ひきこもりの評価・支援に関するガイドラインには、「不登校やひきこもりの支援では、当事者が相談や治療場面に外向くことが難しい場合が多いこと、あるいは相談や受診に踏み切れない当事者に対する一歩踏み込んだ介入が必要な場合があることから、家庭訪問を中心とするアウトリーチ型の支援が有効な支援法の一つとして期待されています。」と書かれています。ここでは、そのアウトリーチ支援法について、実施する場合の方法論を解説するとともに実際のアウトリーチ事例を紹介しアプローチ方法を検討します。また、関係機関の連携によるひきこもり支援について、横浜型の支援体制を紹介しながら連携のポイントや課題についても触れていきたいと思ひます。</p>	<p>内田太郎 (横浜市青少年相談センター ひきこもり地域支援センター)</p>
	<p>6) 発達支援とキャリア支援 ～生活支援、居場所支援、就労支援～ 要旨：「ひきこもり」は、様々な要因によって社会的な参加の場面が狭まり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態である。回復までにかかりの時間が必要とされているが、回復のストーリーを段階的に描きながら実行することで、ひきこもりからの回復に導くことが出来るものと考えます。 回復には何が必要で何を見据えなければならないのかを、皆さんと考えていける時間にしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。</p>	<p>秋田敦子 (仙台市ひきこもり地域支援センター)</p>	

7. **研修ポイント** 2ポイント

8. **申込方法**：①および②をお願いします。

①週日 10:00～17:00 に電話で空席の有無をご確認の上、予約してください。

電話番号：03-3817-6801 事務局

②郵便局の振り込み用紙に、以下の各項目を全て記載して、受講料（会員・大学院生 6,000 円、その他 7,000 円）を申込日より 2 週間以内に振り込んでください。

(なお、納入された受講料は返還いたしません。)

○講座名「ひきこもる人々とその家族への理解を深めその支援を考える」第3回

○ご氏名・臨床心理士番号・連絡先電話番号・ご所属

○口座番号 00110-7-413679

○口座名称 一般社団法人日本臨床心理士

一般財団法人 日本心理研修センター地図

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8-201

